

北海道がんセンター通信


2012 第19号 AUGUST



百合が原公園

CONTENTS

●北海道がんセンターの現在と今後の取り組み	副院長	近藤 啓史	… 2
●開催報告 第32回北海道がん講演会「乳がんセミナー」			… 3
●各科トピックス			
「最新・最良の乳がん治療～北海道がんセンターの取り組み」	乳腺外科医長	渡邊 健一	… 4
「乳がん治療における放射線治療の役割」	放射線診療部長	沖本 智昭	… 5
●「北海道 がんと闘う医療フェスタ 2012」開催案内			… 6
●平成24年度北海道緩和ケアスキルアップ研修会 「リハビリテーション 第2弾」	運動療法主任	小原 登	… 8
●サクラ病理技術奨励賞を受賞して	臨床検査技師	東 学	… 9
●外来予約センター開設しました！	外来師長	菊地久美子	… 9
●ふれあい看護体験に参加した高校生の思いを感じて	ICU副看護師長	栗山 陽子	… 10
●がん看護専門看護師について	副看護師長	菊地 美香	… 10
●お知らせ			… 11
●ボランティアコンサートについて			… 12

北海道がんセンターの理念
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

- 1 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。



副院長
近藤 啓史

当院は平成16年4月国立病院・療養所の独立行政法人への移行により、“北海道がんセンター”となり、新たな歩みを開始しました。そして平成17年「地域がん拠点病院」に、その後21年2月に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、名実ともにがん専門病院として活動しています。

西尾院長以下我々職員はこの4年間、がん専門医療の向上はもちろんのこと、経営の安定化を第一に、そして患者サービスの向上そして働きやすい職場を合い言葉に色々と改革を行ってきました。その成果として経営の黒字化があります。医療内容を変えずに医療機器や医療関連の物品などの購入価格の適正化を図ったためにその成果が出ました。そのおかげで先端医療や最適治療をになう医療機器の購入や質の改善などへの投資が可能となりました。患者サービスは多岐にわたりますが、病院の老朽化に関するものは極力改修に努めて参りました。そして外来待合い時間の短縮とともに、少しでも和める環境整備にと外来待合いにテレビモニターを、外来ホールには喫茶室などを設けました。接遇に関しては「笑顔、あいさつ運動」などを通じ全職員の意識向上をはかり、そして接遇研修会を中心に教育をしているところです。また投書・意見などに関しても、前向きに改善を行っています。ただ当院での患者サービスの一番は最適医療を行うことだろうと考えています。職員に対しては働きやすい職場を提供するために患者サービスにも関わりますが、人の配置、設備投資、近未来の展望などの明示を行い、活気のある職場・病院運営を行っているところです。

今後は老朽化した病院の建て替え、「がん専門病院」として、より専門的ながん医療および緩和医療の提供、そして高齢化するがん患者さんの生活習慣病もともに診療できる体制を作っていきたいと考えています。

1) 個室と4人部屋を中心とした病室、緩和ケア病棟の設置そしてより専門的ながん医療の提供と患者サービスの観点から新しい病院の建て替えを考えています。

2) 生活習慣病も診るため循環器内科、糖尿病診療、眼科、皮膚科などの充実を考えています。また現在乳がん術後の乳房再建を行っている形成外科の充実も考えています。また関連の科の新設も考えています。

3) 手術・放射線療法・化学療法などのがん専門医療については、体腔鏡手術（肺がん・肺転移、胃・大腸がん、子宮がん、腎・前立腺がん、乳がん）の充実や胃・食道・大腸の初期がんには内視鏡手術のより一層の普及を考えています。通常のリニアックによる外照射のほか前立腺・子宮・舌がんなどに密封小線源治療、小さながん病巣には三次元定位放射線治療（ピンポイント照射）、また最先端技術である強度変調照射（IMRT）をより普及させようと考えています。化学療法（抗がん剤治療）は分子標的薬、最新の化学療法薬の普及、新薬（治験薬）を使用した未来の治療も今まで通り行っていきたいと考えています。

当院への益々の応援よろしく願いいたします。

第32回北海道がん講演会 乳がん セミナー

を終えて…

例年、一般市民の皆様ががんの診断や治療についての普及啓発活動の一環として、がん講演会を開催しています。第32回目となる本年は、6月3日(日)13:30より、ホテルさっぽろ芸文館にて行いました。今回の演題、講演した先生はこのようになっております。

『最新・最良の乳がん治療～北海道がんセンターの取り組み』 乳腺外科医長 渡邊 健一
『北海道がんセンターにおける乳房再建について』 形成外科医師 齋藤 亮
『乳がん治療における放射線治療の役割』 放射線診療部長 沖本 智昭

講演内容は、次項の各科トピックスでご紹介しますが、簡単にご紹介すると最初に渡邊先生から乳がんが発生してどのような経過で治療が行われていくのかといった基本的な話題、当院で行われている乳がんの最新治療の解説。次に齋藤先生から「北海道における乳房同時再建の現状」「乳房再建の種類と特徴」「当院で行っている乳房再建治療の流れ」について当院の乳腺外科と協力体制をとり治療にあたっていること、人工乳房による再建は、短期間での入院治療が可能であったり、当院は道内「がん診療連携拠点病院」の中で、乳房同時再建を提供できる数少ない医療機関であることなどをアピールしていました。

最後に沖本先生からは乳がんの治療に放射線がどのように使われているのか、治療に使われる放射線はどのようなものか？安全なものか？といったお話がありました。

治療についての真剣なお話はもちろんのこと、会場の笑いを誘う軽快なトークで、あっという間に時間が過ぎていました。

今回は、250人近くの大勢の方にご参加いただき、大変ありがたく思っております。

当院では今後も、色々な機会にご期待に添える講演会をご用意させていただきます。次回もお誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願いいたします。



乳腺外科医長
渡邊 健一



形成外科医師
齋藤 亮



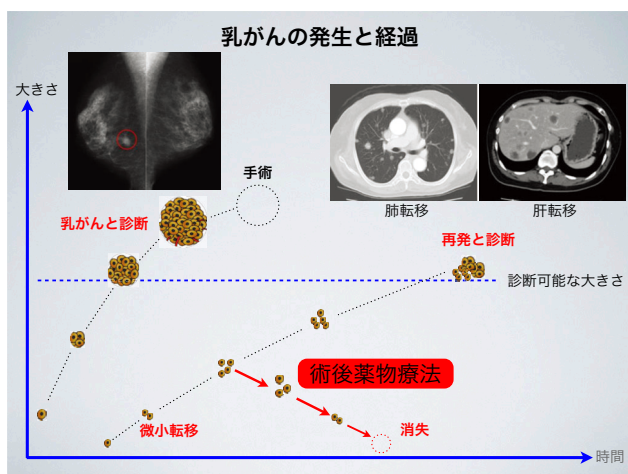
放射線診療部長
沖本 智昭

日本の乳がん罹患率は増加を続け、現在女性で一番多いがんとなっています。死亡数は20年で約2倍となりました。40～50歳代の若い女性に多く、この年代の女性をがんで失うことは、家庭や社会の大きな損失です。乳がんを克服したい・・・患者・医療従事者・研究者の熱意により乳がん治療は大きく進歩しました。

乳がんの治療は決して手術が中心ではありません。乳房温存やセンチネルリンパ節生検などの縮小手術や、乳房再建手術によりQOL（生活の質）や整容性を求めています。手術を縮小しても治療成績に影響がないことが過去の臨床試験で証明されています。乳がん再発率の減少や、転移・再発後の生存期間の延長は、主にホルモン療法・抗がん剤・分子標的治療剤の薬物療法の進歩によりもたらされています。

乳がんは全身病であるという概念が重要で、手術で乳房のしこりやリンパ節転移を取り除いても、目に見えない微小転移が全身のどこかに残っておりそのため再発が起こると考えられています。微小転移を根絶させるためには術前・術後の薬物療法が非常に重要であるということをご理解下さい。

乳がんはひとつの病気ではなくいくつかのタイプの病気の集合です。タイプに応じた薬物の選択が必要です。



ホルモン治療剤、抗がん剤は種類が増え、最適な量、治療期間、薬剤の組み合わせが分かって来ました。HER2（ハーサー）陽性乳がんにはハーセプチンという分子標的薬が非常に有効です。術後の補助薬物療法により再発率が大きく低下しています。また手術前の薬物療法は一般的な治療となり、手術時

にはがんが消失していることもしばしばあります。転移・再発が起きた場合も、多くの薬剤を順次使ってQOLを維持しながら生存期間を延長することが可能です。再発予防や再発後の治療に放射線治療も欠かせません。乳がんでは手術・薬物療法・放射線治療などを組み合わせた総合的な治療が求められます。



医長 渡邊 健一

北海道がんセンターでは乳腺外科だけではなく放射線治療科、形成外科、緩和ケア内科、病理検査科など治療に関係する科や、副作用の管理、転移臓器の治療に関係する多くの診療科、外来化学療法を行う治療センター、リハビリテーションなどの部署と連携をとった、ひとりひとりの患者さんに最適な個別化治療をチーム医療として行っています。また治療を選択する上で重要なのは、科学的根拠（エビデンス）のある標準的な治療をまず第一に考えることです。医師や患者さんの個人的な好みや思い込み、風評などで治療を選択すべきではありません。標準治療とは平凡な並の治療ではなく、治療効果が臨床試験で証明されている、現時点でベストの治療です。標準治療を基本とし、それを進化させる姿勢が重要で、当科ではエビデンスの構築に貢献する治験や臨床試験にも積極的に参加しています。

今回の「北海道がん講演会」では北海道がんセンターが取り組む最新・最良の治療とそれを可能とするチーム医療をご紹介します。詳細は乳腺外科のホームページを御参照下さい。

お問い合わせはこちらまでどうぞ
☎ 011-811-9111

**北海道がんセンター
乳腺外科のサイト**

乳腺外科医師のプロフィール

コンテンツメニュー

- ▶ 乳がんについて
- ▶ 診断の手術
- ▶ 乳がんの手術療法
- ▶ 乳がんの薬物療法
- ▶ 入院生活について
- ▶ 乳がんの治療および臨床試験
- ▶ 当科の手術実績
- ▶ 当科の論文・刊行物
- ▶ 後期研修医の募集

インフォメーション

- ▶ 命と乳房を守るWEBサイト
- ▶ 遠伝子・先端医療外来

あなたに最適な乳癌治療を
～For the patient, We promise!～

当科は節制的な手術を推進する診療科であることから、原発乳がん手術患者以外に、転院から紹介される再発・転移患者も多く診療しています。治療・臨床試験なども積極的に乳がん治療において北海道内で最も先進的な治療を患者さんに提供させていただいており、札幌市以外からも多くの患者様が訪れております。

乳房再建に関して、当院で乳房切除時にエキスパンダーを挿入し、約半年間の拡張後自費診療で人工乳房（シリコンインプラント）を挿入することが当院ですべて行えるようになりました。自家組織を用いた二期再建も行っております。乳房切除後時間が経過している二期再建にも対応可能です。

当科は腫瘍径1cm以下の限局性の早期乳癌を対象にラジオ波焼灼療法の安全性と有効性を評価する多施設共同研究に参加しております。乳癌腫瘍を切除せず体外より穿孔した針からラジオ波を放出し熱で癌細胞死させる方法です。適応基準を満たせば高度医療にて行えます。

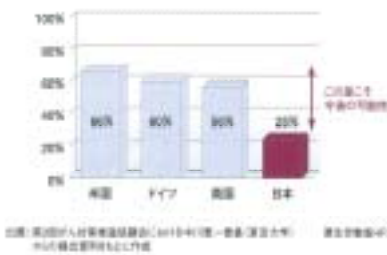
放射線治療科

「乳がん治療における放射線治療の役割」

欧米では、がん患者さんの約3人に2人が一度は放射線治療を受けており、放射線治療はがん治療に必要な不可欠な治療法となっています。

日本では、欧米程、放射線治療を有効に利用していませんが、それでもがん患者さんの約4人に1人が放射線治療を受けており、その中でも乳がんの患者さんの割合は年々増加しています。

欧米ではがん患者の約60%に放射線治療が行われている。



乳がん患者さんに放射線治療が多く使われる理由は主に二つあります。

一つ目は、乳がんのタイプに応じた有効な治療薬（抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬）が次々と開発され、再発や転移が起きた患者さんでも以前より長生き出来るので、転移に対する放射線治療を受ける機会が増えている。

二つ目は、早期の乳がん、局所が進行した乳がん、手術後に再発した乳がん、転移した乳がんという様々な段階の乳がんに対して放射線治療が役に立つからです。

放射線治療を受けると聞くと、非常に恐ろしい殺人光線を体に浴びるようなイメージを持つ方がいらっしゃいます。通常、放射線治療で使われる放射線はX線で、このX線は検診などの胸部X線撮影でも使用されてい

放射線治療装置から出る放射線は胸部レントゲン検査と同じX線



放射線治療

胸部X線撮影

ます。もちろん、放射線治療に使用するX線は、胸部X線撮影で使用されるものより強い

受ける人にとって、痛みや熱など体を感じる事は一切無いという事は同じなのです。

早期乳がんの患者さんに対する標準的な治療法は、乳房温存療法と呼ばれています。

乳房温存療法というのは、乳房温存手術（必要に応じて腋のリンパ節も切除する）と手術後の放射線治療をセットで行うという意味です。つまり、乳房温存手術を受けると決めた患者さんは、手術後に放射線治療を受ける事も一緒に承諾したという事になります。

放射線治療を追加する理由は、再発率、死亡率が明らかに低下するからです。

実際の放射線治療は、がんがあった方の乳房全体に一日一回、数分間の放射線治療を20から25回、約5週間受けていただくことになります。

副作用としては、放射線治療を受けた皮膚が、日焼けのように赤くなったり、全身倦怠感を感じる場合があるものの、日常生活に影響する重い副作用はほとんど起きません。

骨転移や脳転移に対する放射線治療も、乳がん患者さんのお役に立っています。ドイツで骨転移患者1157例について調査したところ、放射線治療の10か月後に生存している人は、肺がんの患者さんの場合約10%なのに、乳がんの患者さんはなんと約60%でした。

乳がんの患者さんは、骨転移が起こっても長生きできるのです。従って、数年間、骨転移や脳転移を抑え込むには、放射線治療が最適なのです。骨転移による疼痛は、放射線治療を行えば、約90%の患者さんで疼痛が緩和され、放射線治療に伴う副作用は軽微です。

放射線治療は、他にも様々な乳がん患者さんのお役に立てるのですが、日本では、放射線治療を有効に活用しているとは言えない現状です。

医師からの提案を待つだけでなく、患者さんからも放射線治療という選択肢が無いのか、主治医に質問するようにしていただければと思います。

是非、一度インターネットで『市民のためのがん治療の会』のホームページをご覧ください。放射線治療について、非常にわかりやすく、役に立つ情報が満載されています。



放射線診療部長
沖本 智昭

市民のためのがん治療の会とは
(ホームページ <http://www.com-info.org/>)

- がん患者さんが、自らにとって最適な治療方法を見つけるための情報を提供する団体です。
- 役に立つ情報をホームページに掲載しています。
- 西尾正道(北海道がんセンター院長)をはじめとする著名な放射線治療医によるセカンドオピニオンの斡旋を行います。
- 定期的な講演会、ニュースレターによる情報提供をおこなっています。
- がん医療を改善する政策提言も行っています。

体験する

- 病院見学ツアー（手術室、内視鏡室、リニアック、マンモグラフィー、治療センターなど）
- 薬剤師さんのお仕事体験ツアー
「薬局内見学、散薬分包、カプセル充填、軟膏ねりの体験・・・」（15歳以下）
- 体腔鏡手術デモンストレーション「内視鏡手術に使われる器械を使い体験もできます」
- 医療機器体験「電気メス、人工呼吸器の操作を体験できます」
- できていますか？正しい手洗い「しっかりと手を洗うことは病気の予防にもなります」
- 標本を見てみよう「顕微鏡で標本を見ます。がん細胞の姿を見てみよう」
- 超音波検査（頸動脈エコー）「実際にエコーを体に当てて体験してみよう」
- 前立腺がんPSA検診（抽選）「抽選で10人の方が実際の検診を体験」
- 測定コーナー（血糖値測定 200名まで・ストレス度チェック 200名まで・肺年齢測定 100名まで ※整理券をお配りします。）
- 自然放射線を測定してみよう 20名まで ※整理券をお配りします。
- ハンドマッサージ体験「アロマオイルを使ったマッサージが体験できます」
- 正しい歯ブラシの使い方「歯科衛生士によるブラッシング指導」
- リハビリり体力測定「自分の体力は何歳くらい??？」

学ぶ

- 講演会・・・当院医師による講演。この機会にぜひ正しいがんの知識を持ちましょう。
第一部「がん治療で知っておくべきこと」
院長 西尾 正道
第二部「がん治療と骨粗鬆症～丈夫な骨で元気に長生き～」
腫瘍整形外科医長 小山内 俊久
- 各診療科の紹介パネルを展示
- がん検診について「その場でがん検診予約も受け付けます」
- 大切なのは予防と発見！「乳がん自己検診モデルの体験など」
- 心肺蘇生法とAEDの使い方
- 安全な化学療法
- がんウルトラクイズ「楽しく学ぼうがんのこと」
- 知って欲しい治療のこと「新しい薬ができるには・・・」
- がん情報コーナー「がんについて学ぼう」



Hokkaido Cancer Center & Hokkaido

毎年恒例 北海道がんセンター
最大のイベント。

今年もやります!!

是非遊びに来てください

北海道がんと闘う
医療フェスタ 2012

相談する

- まちの保健室（血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定）
- 睡眠時無呼吸相談
- 乳房再建無料相談
- 緩和ケア相談 ● おくすり相談
- 栄養相談 ● 福祉何でも相談
- 患者会コーナー（ピアサポート）



場所：北海道がんセンター 外来ホール

一部の測定は整理券をお配りします。
人数に制限がございますので、予め
ご了承ください。順番待ちは少しだ
けになりそうなので、色んな
ブースを見て回ってください。

駐車場は
利用できません。
公共交通機関をご利用ください。
駐車時間を気にせずゆつくり
楽しんで行ってください。

～ 検診は、声かけあって、みんなで予防～

楽しむ

- 病院食試食コーナー（ドライカレー・ポトフ・ケーキ・ハーブティー他）
- 各種模擬店（ポップコーン・駄菓子など） ※数量限定、無料です!
- ボランティアバザー ● サンプル展示・試供品コーナー
- ドレスアップコーナー（患者さん向けおしゃれ用品展示・試着など）

※ 内容は予告なく変更する事がありますのでご了承ください。

リハビリテーション 第2弾

運動療法主任 小原 登

5月12日（土）に北海道緩和ケアスキルアップ研修会を当院の大講堂で行いました。

昨年12月3日（土）に「がん・緩和ケアに活かすリハビリテーション・アプローチ」という演題で、講師に千葉県立保健医療大学健康科学部リハビリテーション学科の作業療法士の安部能成准教授にお越し頂き、ご自分の豊富な経験と海外を含めた学会・研究活動から、多数の症例を紹介しながらリハビリテーションの有効性について講演して頂きました。参加者からのアンケートで、実際の方法についての実技演習の開催に要望が多く寄せられました。



千葉県立保健医療大学
リハビリテーション学科
健康科学部
安部 能成 先生

今回は「リハビリテーション第2弾」と称して、午前の部は「在宅移行へ向けたリハビリテーション」をテーマとした症例検討会、午後から実技演習が開催され約5時間の充実した内容の研修会が開催されました。

参加者は理学療法士25名、作業療法士14名、言語聴覚士2名、看護師3名の計44名が北海道内各

地から参加されました。実技演習のため参加定員に制限を設けたため、希望したにも関わらず参加できない方が多数おられました。紙面上をお借りいたしましてお詫び申し上げます。



内容が非常に豊富で長丁場の研修会でしたが、参加者の皆さんは疲れる様子もなく、活発な質問・意見もあり、有意義な研修会であったことが感じられました。

今現在の患者さんが持っている力・可能性を引き出し、患者さん・家族の希望に沿った日常生活環境を、チームとともに整えていくことが重要であり、それが「ADL（日常生活動作）が低下しても、QOL（人生の満足度）を向上させることに繋がる」ということを強調され、骨転移を有する患者さんの車椅子からの移乗動作のポイント、福祉機器の選別のポイントなど、明日から臨床に活かせる具体的な方法について教えていただきました。

今回の研修会で、改めてがん・緩和ケアでのリハビリテーションの重要性について、再確認させていただきました。



車椅子から移乗する際のポイントを手取り足取り解説してもらいました。



先生が機器を使い会場を所狭しと動き回っていました。（福祉機器選別のポイント解説の一コマ）

サクラ病理技術奨励賞を受賞して

臨床検査科病理細胞診室 臨床検査技師 東 学

この度、サクラ病理技術奨励賞を頂くこととなり、6月2日に千葉県幕張メッセで開催された、第53回日本臨床細胞学会春期大会に於ける受賞式へ出席して参りました。この賞は病理細胞診検査の関連機器を扱うサクラファインテックジャパン(株)が創設した褒賞制度で「病理標本作製技術に関する研究論文や日常業務での技術・知識および地域医療への顕著な貢献というような活動」を対象とし、個人および医療団体に贈られ過去には9名の技術者と2団体が受賞されております。

今回評価された私の研究は2つあります。一つは北海道内病理施設を対象とした組織染色の外部精度管理調査で、国内で初めてバーチャルスライドを活用した報告様式を発案し、これまで不可能であった多くの施設間での染色状況比較をインターネット上で展開することを可能としたことです。もう一つは、当院の山城先生が考案された細胞診のためのZ軸ビデオを収録したデータベース(Zavic DB)を細胞診精度管理調査と症例検討会で活用し、細胞画像を細胞検査士間で共有することで細胞診断に対する多くの意見交換を可能とさせたことです。

これらは、道内施設の病理細胞診技術の統一化と精度の向上を目的として院内の臨床研究課題から始めたことであり、当院のがん診療連携拠点病院としての機能の一端も担えたものと喜んでおります。本受賞に際し、普段からサポート頂いているスタッフの皆さんに紙面をお借りして深謝致します。



受賞された皆さんとの写真。右から3番目が筆者

外来予約センター 開設しました！

外来師長 菊地 久美子

5月より予約センターの開設と共に担当者3名が配置されました。主に入院説明業務とがん検診総合窓口業務を行っています。

入院説明業務

従来、入院される患者さんに各科で看護師が説明業務に当たっていましたが、予約センターで担当者が説明する事で、ゆったりとした雰囲気の中で、一貫した説明と疑問なことに対しても細やかな説明を行っています。

がん検診総合窓口業務

乳がん、子宮がん、前立腺がん、胃がん、大腸がんなどのがん検診の受け付けを担当しています。乳がんは問診とマンモグラフィの他乳腺エコーも始めました。胃がん検診は胃バリウムだけではなく、胃内視鏡検診(胃カメラ)も行っています。受け付けは直接電話をいただいた方、または直接来院された方へ丁寧に説明しています。

早期のうちのがんが発見されるようがん検診をおすすめしています。

予約センター受付

13時～16時

連絡先

北海道がんセンター TEL: 011-811-9111

乳がん検診	火	14時～15時	金	14時30分～15時30分
子宮がん検診	水・金	13時～		
前立腺がん検診(PSA)	水	14時～		
大腸がん検診	月～金	8時30分～11時		
胃内視鏡検診	金	9時～10時10分		



ふれあい看護体験に参加した 高校生の思いを感じて

ICU副看護師長 栗山 陽子

当院では看護週間のイベントとして、近隣の高校生を対象に「ふれあい看護体験」と称し1日看護体験を開催しております。今年も5月13日に10人の高校生を受け入れました。最初は緊張した面持ちの高校生も白衣に袖を通すと笑顔がみられました。

看護体験では、副看護師長と一緒に患者さんへ足浴や清拭、車いす移送、血圧測定などを体験したり、高校生同士で看護技術の体験をしました。実際にベッドサイドで看護師と一緒に体験したことで、高校生のみなさんには、看護師はただ足を洗うだけではなく、患者さんに安心感を持っていただけるよう常に

気を配りながらケアを行っていることを感じてもらえたのではないかと思います。

病院内見学で
薬局・外来棟・
リハビリ室を見



学し、リハビリ室では実際のリハビリを体験しました。患者さんに最良の治療を受けてもらえるよう私達看護師は、常に他職種との連携も必要であることを感じてもらえたのではないかと思います。

今回の看護体験で高校生のみなさんは、「看護」の仕事の大変さを感じつつも、それ以上に「奥深さ」と「やりがい」のある仕事だということを実感したのではないかと思います。なにより、「患者さんからの言葉の重さ」を感じ、そして、そこから生まれる「看護師の笑顔」が素敵だったと、あらためて看護師への夢を膨らませてくれました。

私たちも、高校生の素直な思いを受け止めつつ、改めて、日々、精進しなければという思いを抱いた1日になりました。



緩和ケアチーム専従看護師 副看護師長 がん看護専門看護師 菊地 美香

がん看護専門看護師とは、日本看護協会が認定する資格の一つです。複雑で困難な問題を抱えるがん患者さんとそのご家族に、より質の高い看護を提供することが目的です。主な役割は実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整の6つあり、がん看護の専門的知識と技術を活用しこれらの役割を担います。

私は昨年12月に資格を取得し、この4月から「がん看護専門看護師」として活動しています。

どのような働きをしているかという、現在は緩和ケアチームに依頼のあった患者さんのもとにうかがって、病気や治療に伴う辛い症状を緩和するための直接ケア（実践）を行い、入院患者さんのケアについて病棟看護師からのコンサルテーション（相談）を受け、より良い方法をともに考えています。

患者さんと医療者の意見が異なる場合など、患者さんに必要なケアを円滑に提供できるよう医療者間のコーディネーション（倫理調整、調整）を行うこともあります。また、病院内外の看護職者や大学院で学ぶ学生さんに対しがん看護に関する講義をしています（教育）。さらに、看護をより良くするために看護研究（研究）を行い学会発表なども行っています。（かっこ内は専門看護師の6つの役割）

現在は緩和ケアチームの活動が主ですが、がん看護専門看護師として入院、外来を含めた患者さんやご家族の相談にも応じられるようになりたいと思っています。また、緩和ケアは、がんの診断を受けた時から治療と合わせて始められるケアですが、まだ最期に受けるものというイメージが残っているように思います。

必要な人がケアを受けられるよう、多くの人に知ってもらうことも課題であると思います。

病院機能評価 ver.6.0 に更新されました。～信頼される病院であるために～



本年2月に病院機能評価更新のため、(財)日本医療機能評価機構による第三者評価を受けました。この認定は、病院組織の運営と地域における役割、患者の権利と安全確保の体制、療養環境と患者サービス、医療提供の組織と運営、医療の質と安全のためのケアプロセス、病院運営管理の合理性などについて、その認定基準に達しているかどうかの評価を受けたものです。

今回認定された「審査体制区分4」は、一般病院病床数500床以上の病院に対する認定区分です。これからも、病院職員が一丸となって病院機能評価の認定水準を維持し、患者さんが安心して治療を受けられるよう努力し続けてまいります。この認定証は、正面玄関に掲示しております。

市民のための北海道がんフォーラム ～がん専門医と語り合う会～

秋の講演会も今回で2回目となります。去年の大講堂から場所を変え、今年は外来ホールで行います。コーヒーやお菓子を片手にがん専門医と語りませんか？ご近所お誘いあわせの上、ぜひ遊びに来てください。(コーヒーとお菓子は数に限りがございますが無料でご用意しています。)

日時：10月6日(土) 13:00～15:30 場所：北海道がんセンター 外来ホール

「講演」

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ①乳がんを克服するために知っておきたいこと | 乳腺外科医長 渡邊 健一 |
| ②がんと心臓 | 循環器内科医長 井上 仁喜 |
| ③最新の大腸癌治療～腹腔鏡手術、集学的治療を中心に～ | 消化器外科医師 前田 好章 |
- 「パネルディスカッション」



お問い合わせ先：がん相談支援情報室 TEL 011-811-9118 担当：吉田

「がん診療地域連携クリティカルパス」連携医療機関のご紹介について

当院は北海道における都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、「がん診療連携クリティカルパス（以下、連携パス）」の整備が求められております。現在当院では、我が国に多い5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん）で7種類の連携パスが運用されています。かかりつけ医の先生には普段の高血圧や糖尿病診療と併せてがん治療後の経過観察（問診、検査、投薬）を無理の無い範囲でお願いさせていただき、当院の担当医は節目の診察、がんの再発が疑われた場合の診察を担当します。

遠方から定期受診する患者さんや、かかりつけ医の先生に術後の経過観察をしていただけるので患者さんの負担が軽減されるケースがございます。

当院と連携パスを用いた地域連携を行っていただける医療機関のご紹介です。(7月31日現在)

- (北区) 大黒胃腸内科病院、小林内科クリニック、麻生乳腺甲状腺クリニック、しのろ駅前医院、西家内科、勤医協札幌北区ほぶらクリニック (東区) 光星メディカルクリニック、みきファミリークリニック、とこはる東栄病院、札幌東徳州会病院、LSI札幌クリニック (豊平区) 光進会札幌月寒病院、札幌しらかば台病院、いし胃腸科内科、ふなはし内科消化器科クリニック、上村内科医院、たけだ内科胃腸科クリニック、月寒東内科クリニック、愛内科クリニック (西区) 坂本医院、ひしかわ内科クリニック、札幌第一病院、つちだ消化器循環器内科、西さっぽろ病院、ことに・メディカル・サポート・クリニック、琴似駅前内科クリニック (中央区) しんたに内科消化器内科、JR札幌病院、札幌駅前しきしま乳腺外科クリニック、今井内科小児科医院、川西内科胃腸科病院、土田病院、札幌南三条病院、佐野内科医院、藤田外科整形外科
- (白石区) 青空たけうち内科クリニック、小路内科消化器クリニック、札幌協全医院、栄通わたなべ内科・皮ふ科、東札幌病院 (南区) 札幌共立五輪橋病院 (手稲区) 延山会西成病院、隆恵会わだ内科外科クリニック、溪仁会手稲家庭医療クリニック (厚別区) 札幌ひばりが丘病院、札幌社会保険総合病院 (清田区) 札幌里塚病院 (千歳市) 千歳駅北クリニック (恵庭市) かたおか循環器内科クリニック、恵庭第一病院 (石狩市) みき内科クリニック (小樽市) 小樽済済会病院 (倶知安町) さとう内科医院、倶知安厚生病院 (仁木町) 森内科胃腸科医院 (寿都町) 寿都町立寿都診療所 (黒松内町) 黒松内町国民健康保険病院 (真狩村) 真狩村野の花診療所 (室蘭市) 野尻内科消化器科クリニック、市立室蘭総合病院 (苫小牧) 同樹会苫小牧病院 (滝川市) 滝川市立病院 (深川市) 深川市立病院 (苫前郡) 北海道立羽幌病院 (豊富町) 豊富町国民健康保険病院 (釧路市) 太平洋記念みなみ病院 (中標津) 町立中標津病院



「歌と踊りとマジック」

今年度第1回目の院内コンサートを5月24日（木）外来ホールにて、「歌と踊りとマジック」を15時より開催しました。平成22年5月にも開催していただいている方々で患者さんも懐かしい顔で見られておられました。

代表の広木さんは仲間の方々と「北の舞響き」というサークルを立ち上げ、色々な病院等を訪問されています。今回のコンサートも歌もあり、踊りもあり、更にマジックと外来ホールに集まった患者さん達もひとときの楽しい時間を過ごされておりました。



「声楽とピアノのコンサート」

今年度第2回目の院内コンサートを6月13日（水）外来ホールにて、15時より開催しました。今回演奏いただいた大山あいさんは、札幌出身でハンガリーの国立リスト音楽院ピアノ科を卒業され、現在ピアノ講師をしながらソロ、伴奏者として演奏活動をしております。また、鈴木真理さんは、札幌出身で国立音楽大学音楽学部声楽科を卒業後大山さんと組んでコンサートを実施しております。



始めに大山さんから今日の演奏曲について、話があり、演奏が行われました。大山さんの奏でるピアノの音色と鈴木さんのソプラノで、ただ静かに聞き惚れるという感じでした。途中で単独のピアノ演奏とソプラノに患者さん達からたくさんの拍手を浴びておりました。本当に外来ホールがピアノの音色とソプラノに包まれ、静かで優雅な時間が過ぎて行きました。演奏終了後に患者さん達のアンコールがあり、患者さん達からリクエストされた曲を演奏され、全ての演奏が終了しても名残惜しい患者さん達が、大山さんと鈴木さんに話かけをしていました。

この場をお借りしまして出演された方々に、深く感謝申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター
北海道がん診療連携拠点病院

〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表 TEL (011) 811-9111
FAX (011) 832-0652
ホームページ <http://www.sap-cc.org/>

● 相談窓口

がん相談支援情報室

直通電話 (011) 811-9118

医療連携室

直通電話 (011) 811-9117

直通FAX (011) 811-9110

メールアドレス hyoshida@sap-cc.go.jp

交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 駐車場につきましては数に限りがありますので、できるだけ、公共の交通機関をご利用下さい。